

夏期講習で偏差値を5以上アップさせるには

- 授業で「理解」した内容を「3大練習」で「定着」させ、偏差値5以上アップに結びつけよう!! -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：いよいよ夏期講習に入りました。夏期講習会を通じて、1科目でも多く偏差値を5以上アップさせたいのですが、何かよい勉強方法はありますか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)あります。まずは、開倫塾の先生の授業をよく聴き、講習会用テキストを「うんなるほど」と十分「理解」して下さいね。

時間のある人は、講習会用のテキストを「予習」して下さい。自分の力でテキストをざっとやってみる。テキストを自分の力で勉強して、よくわからない単語や語句、内容は、辞書や参考書、学校の教科書などで調べてみる。それでもわからないことは何かを予(あらかじめ)めはっきりさせてから、開倫塾の授業に出席する。「予習」は、「よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」です。ただ、あまり無理をしないで下さいね。

(2)「欠席」や「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「おしゃべり(私語)」、「携帯」、「ゲーム」、「ボーッとしていること」などがあると、いくら開倫塾の先生が熱心に授業をしても、皆さんは「うんなるほど」と十分に「理解」することはできません。そのようなことがないようにして下さいね。特に「おしゃべり(私語)」は、他の塾生の「理解」の妨げになりますので、開倫塾では「授業妨害行為」と考えて「退塾処分」となります。十分注意して下さいね。

(3)授業中は、先生の目を見ながら全神経を集中して、先生の説明を一語一句聞き漏らさないことで「理解」に努めて下さい。必要なことは、どんどん「ノート」にメモを取り続けて下さい。授業に集中できること、必要なことはメモを取り続けることができることは、大切な「能力」です。「授業に集中する能力」と「メモを取り続ける能力」を身に付けることは、「理解」の大きな助けとなります。

(4)講習内容について開倫塾の先生の授業をよく聴き、十分「理解」し、必要なことをメモし続ければ、その科目は誰でも偏差値45以上を取れます。偏差値45以下の科目は、授業に熱心に出席して、まずは講習内容の完全「理解」と「ノート取り」に努めて下さい。よくわからないことがあれば、開倫塾の先生に遠慮なく質問して下さいね。

(5)「語句」の意味がわからないときは、「辞書」の使い方を身に付けた上で、「辞書」をどんどん引き、その「意味」をノートに記録しておきましょうね。科目によっては、「学校の教科書」にも、それは何のことが意味が書いてありますよ。「学年別の参考書」も、よくわからないことを「理解」するのにとても役に立ちます。調べたことは、ノートに記録(メモ)しておくことをお忘れなく。記録(メモ)できることも大切な能力です。

(6)授業直後に、テキストや授業中に取った「ノート」をもう1～2度読み返すことは「理解」を深めます。あとで勉強しやすいように、「ノート整理」もその時にやってしまいましょう。

(7)偏差値が45以上の人も、今お伝えしたような勉強方法で「理解」に取り組んでいない場合には、この通りやるだけで、偏差値が5以上上がることがあります。しっかりと学校や開倫塾の授業に取り組むこと、よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨むこと、授業後に、語句の意味を確かめたりしながら「ノート整理」をすることは、偏差値45以上の人の偏差値大幅向上に繋がります。

Q : それではお聞きしますが、偏差値を50以上にするにはどうしたらよいのですか。

- A : (1)開倫塾の夏期講習で、一度「うんなるほど」と十分「理解」したことを、つまり、その日にやった夏期講習会のテキストと授業中に取ったノートをやっくり声を出して読むこと、「音読」することです。英語、社会、国語、理科、数学、すべての科目について、声を出してゆっくり読むこと。その日の授業を思い出しながら、テキストとノートを何回も何回も声を出して読むこと。声を出して読みながら、大切なところは少しずつその場で覚えるようにしましょう。
- (2)その日にやったことの大半を覚えられたら、次に、夏期講習の初日にやったところからもう一度、声を出してゆっくり読んでみましょう。このように、毎日、毎日、その日にやった開倫塾の講習会用のテキストとノートを大きな声を出してゆっくり読み、大切なことは大体覚える。それが終わったら、夏期講習会の初日から今日までのテキストとノートをもう1～2回声を出してゆっくりと読み、大切なことは覚える。覚えるというのは、大切なことはスラスラと口をついて正確に言えるまでにすることです。この音読のトレーニングを「音読練習」と言います。
- (3)このようなやり方で、開倫塾の夏期講習の授業で一度「うんなるほど」と「理解」した内容について、「テキスト」と「ノート」を用いて「音読練習」をし、大事なことは口をついて正確にスラスラ言えるようにすれば、誰でも偏差値は50以上取れます。
- (4)偏差値50以下の科目は、大体「うんなるほど」と「理解」はしていても、「音読練習」が不足しているために、大切なことが口をついて正確にスラスラ言えない、つまり十分に身に付いていないのです。ぜひ、「音読練習」をして下さいね。この「音読練習」は、どこでもできます。「テキスト」と「ノート」を手放さず、短い時間を活用して「音読練習」を繰り返し、「偏差値50突破」を図って下さいね。

(5)偏差値50以上の人でも、この「音読練習」を十分にしていない人は、ぜひ確실히行って下さい。テキストやノートの最初のページから、今日勉強したところまで、毎日のように「音読練習」をすると、今まで習ったことのすべてが正確に定着するため、頭の回転がどんどんよくなります。偏差値50以上の人の偏差値もどんどん上がります。偏差値65、70以上の人も必ず「音読練習」はして下さい。

Q : 偏差値50突破の鍵(かぎ)は、「音読練習」ですか。それでは、またお聞きしますが、偏差値55を突破するにはどうしたらよいのでしょうか。

- A : (1)一度「うんなるほど」と十分「理解」した開倫塾の夏期講習用テキストや授業中に取ったノートの内容を、「音読練習」し、スラスラ口をついて正確に言えるようになったら、楷書体(かいしょたい)、つまり学校の教科書の書体で正確に書けるまで書き取りのトレーニング、つまり「書き取り練習」をすることです。
- (2)英語は、スペリング(spelling、綴字、つづり字)を美しいブロック体または筆記体で正確に書けるまでにすることです。英語は、単語や語句だけではなく、その単語や語句が用いられている文全体を正確に書けるまでにして下さいね。
- (3)国語は、漢字書き取りだけでなく、大切と思われる語句はすべて書けるようにすること。社会や理科も、大切な語句と語句の意味も書けるようにすること。固有名詞やものの名前、テキストに載っている図表も書けるようにすることが大事です。このように、夏期講習会で習った内容は、全科目ともすべて正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすることが大切です。
- (4)「音読練習」と「書き取り練習」を熱心に行っている塾生ほど、「学校成績」もよく、「偏差値」も高いことは、開倫塾を29年間やってきましたのでよくわかります。いらなくなった紙の裏側を集め、紙が真っ黒になるまで「書き取り練習」を繰り返せば、誰でも偏差値55突破は可能です。

偏差値55突破は、「音読練習」で何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるようになった内容について、「書き取り練習」を繰り返して、楷書で正確に書けるようにすることで実現します。

(5)この「書き取り練習」も、「時」と「場所」を選びません。開倫塾の夏期講習会用のテキストと「ノート」を常に持ち歩いて、時間があったら、「音読練習」とともに「書き取り練習」も繰り返して下さい。講習会の初日からの分で、一度「書き取り練習」はしたけれどもちょっと忘れてしまったなと思われるところは、念のためにもう何回か「書き取り練習」を繰り返して下さいね。人間は誰でもすぐに忘れてしまいます。忘れることを恐れないこと。忘れる以上に覚える努力をすることを心掛けて下さい。

(6)偏差値 55 以上の人で、この「書き取り練習」をしていない人は、安心しないで「書き取り練習」も十分して下さい。実は、偏差値の高い人ほど「音読練習」「書き取り練習」をぬかりなくやっているのです。怠(おこた)っているのはあなただけかもしれませんよ。大学生になっても大学院生になっても、また社会に出ても、この2つの練習は怠りなく確実に行って下さいね。

Q：偏差値60突破の鍵(かぎ)は何ですか。

A：(1)私立中学校入試でも、高校入試でも、大学入試でも、偏差値 60 突破の鍵(かぎ)は変わりません。夏期講習会で学習した「例題」、「計算問題」や「練習問題」を、授業後に、その日の授業を思い出しながら、自分の力で、やさしい問題も含めて、とりあえずもう1～2度やり直すことです。自分にとってはやさしくスラスラ解ける問題も、必ず解き直して下さい。「計算」や「問題」を1～2度やり直すことで「理解」が深まります。

(2)なぜそのような解答になるのかを十分「理解」し、スラスラとよくできるようになった問題は、問題を見た瞬間にパッと条件反射で正解が出るまでにしておくことが大切です。なぜなら、テストの時間は限られていますから、十分「理解」してパツ、パツと条件反射で解答が出せる問題が多いと、テストの時に時間の「ゆとり」が生まれます。その「ゆとり」の時間を、自分にとって少し難しめの問題をよく考えてじっくり解くために用いることができるからです。自分にとって少し難しめの問題をじっくり考えるためには、パツ、パツと解ける問題が多ければ多いほどよい。そうは思いませんか。

(3)パツ、パツと条件反射で答えが出るまでには、最終的には、最低でも5～6回同じ問題を解く必要があると私は考えます。ある進学塾の先生は、10回は必要だとおっしゃっていました。何回同じ問題を練習したらよいかを、御自分でよく考えて下さいね。

(4)偏差値 60 突破の「鍵」は、開倫塾の夏期講習会用テキストで授業中にやったすべての問題を、5～6回繰り返して行うこと。「計算・問題練習」に尽(つ)きると言えます。問題を解いていて、どうしても解き方がわからなければ、開倫塾の先生に遠慮なく聞いて下さいね。

偏差値が 60 を突破すると大体の学校には合格できますので、こと入学試験についてだけ言えば、選択肢(せんたくし)が大幅に増える、未来が大きく開けると言えます。

(5)偏差値が 60 以上の人、この「計算・問題練習」は丁寧(ていねい)に、丁寧に行って下さいね。成績がよい人ほど結果がはっきり見られるのが「計算・問題練習」です。

Q：開倫塾の夏期講習会を通じて、偏差値65突破の秘訣は何ですか。はっきり教えて下さい。

A：(1)開倫塾の夏期講習(中学3年生はお盆特訓もあります)では、夏期講習会用のテキストのうち、大切なものを中心に授業をします。偏差値 65 突破の秘訣は、開倫塾の夏期講習会用テキストをスミからスミまで、ノートを取りながら完全にやり切ることです。

(2)開倫塾の通年用テキストも、重要なものを中心に授業をしていますので、これについても、今までやった部分だけでよいですから、ノートを取りながらスミからスミまで完全にやり切ることです。もしわからないところがあれば、つまり、「理解」できないところがあれば、先生に遠慮なく質問して下さい。

(3)開倫塾のテキストは、スミからスミまですべてを丁寧にやり抜けば、それだけで偏差値が70以上取れるように編集されています。偏差値65以上を目指す人も、全力を傾けて、今までにやったところまででよいですから、開倫塾のテキストをスミからやり終えて下さい。やってみてどうしてもわからないところがあれば、どうか遠慮なく開倫塾の先生に質問して下さいね。わからないまま、つまり「理解」不足のまま放置しないことが最も大切です。

以上のような勉強をして、十分「理解」した内容については、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を十分行い、確実に「定着」を図って下さい。

Q：偏差値70突破は、どのようにすれば可能ですか。

A：(1)開倫塾の夏期講習会用テキスト(中学3年生はお盆特訓用テキストも含む)を、スミからスミまで一人でどんどんノートに予習して下さい。この文章の初めでも言ったように、わからないことをはっきりさせて授業に臨むことです。「予習」の段階で、辞書や参考書、学校の教科書などを用いながら、自分の力で「理解」できるところは「理解」する。

この予習に対する考え方は、東京大学法学部で民法を担当なさった星野英一教授が、法学部の学生に教え続けた勉強方法です。開倫塾の塾生の皆様の大半は、高校卒業後に、大学などの高等教育機関に進学するのですから、今の内から「大学での予習の方法」を身に付けておくことは、大学進学のための大切な準備勉強です。そう考えて私は、この東京大学法学部の星野英一先生の勉強方法を、29年間塾生の皆様にお伝えしてきました。

(2)開倫塾の夏期講習会用テキストの予習を一日も早く終了させて、次に、2～3学期の学習内容を、学校の教科書と開倫塾の通常授業用のテキスト(中学3年生はお盆特訓用テキストも含む)を併用して「予習」することを心からお勧めします。

(3)「うんなるほど」と十分「理解」したことは、「予習」の段階で「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返し、知識を完全に「定着」させることが、偏差値70突破を目指す人には求められます。

星野英一先生も、予習はここまでは求めておりません。私が考えた方法です。しかし、一度「うんなるほど」と「理解」した内容は、誰に遠慮することなく「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をしてしまってもよいと考えます。あまり無理をすることはありませんが、興味のある科目、これだけはきちんとした勉強をしたいという科目だけでも、授業を受ける前に「3大練習」を済ませてしまうことは、素晴らしい試みと私は考えます。

学校を出て社会人となれば、勉強は一人でコツコツとせざるを得ません。先生の授業を受けられるのは学校に在籍する間だけというのは、まぎれもない現実です。「自学自習」できる分野や科目を少しずつ増やすことは、知識を基盤とする現代の社会では欠かせません。また、上級学校に進めば進むほど、自分で勉強することが求められますので、「大学」という最高教育機関で学ぶことを目指す人のよい心掛けと考えます。

(4)学年終了分までの予習が大体終了したら、「過去に出題された問題(「過去問」と開倫塾では略称しています)」を、何年分が実際に解いてみることをお勧めします。「過去問」を自分で解いて、よくわからない問題や間違えた問題があったら、その原因は何か。「理解」が不足していたのか、正確に覚えていないことが原因であったのか、正確に書けないことが原因であったのか、計算練習不足が原因であったのか、問題練習不足が原因であったのかなど、よくわからない問題や間違えた問題につき、その原因を推定したりはっきりさせることが大切です。それを、「誤答分析(誤った解答の分析)」と呼んでいます。

(5) 「誤答分析」の結果、間違えた原因が推定されたり、明らかになったらどうするか。

「理解」不足であるなら、開倫塾のテキストや学校の教科書、学年別の参考書、授業中に取ったノート、辞書などを総動員して、もう一度「うんなるほど」と十分「理解」すること。もし、どうしても「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問することが大事です。

「定着」が不足して間違えたのであれば、必要な「3大練習」をその分野だけでも徹底的に行って下さいね。

(6) この「誤答分析」は、偏差値 70 以上の方だけでなく、偏差値がいくつであっても積極的に行うべきと考えます。間違えた問題をノートに書き写して「間違いノート」を作成し、「間違いノート」を反復学習することも成績を確実に大幅に上げる上での大切な勉強方法です。

(7) 偏差値が 70 を突破して、自信のある科目については、中学 3 年生であれば高校生用の、高校 3 年生であれば大学生用のテキストや参考書を書店で買い求め、どんどん勉強を進めることもお勧めします。たとえ 1 科目でもよいから、「次学年の先取り勉強」をどんどん進めましょう。

(8) 自分の例を引いて恐縮ですが、私は社会科が大好きでしたので、中学 3 年生の 1 学期には、現在の公民だけは中 3 生の教科書を自分なりに勉強し終えました。夏頃からは、高校 3 年生の「政治経済」の参考書を買って勉強していました。高校に入りしばらくしてから、大学生用の「憲法」や「経済学」、「国際関係論」のテキストや参考書、新書本を買って、一人でずっと読んでいました。お陰で、大学入試の全国規模の模擬試験で 1 科目だけですが全国でも 1 ケタ。偏差値も 70 を越えた覚えがあります。

(9) 受験勉強に遠慮は一切無用です。好きな科目、よくできる科目は、先の学年、先の学校で勉強する内容にまで踏み込むことをお勧めします。首都圏の中高一貫校では、中学 3 年生終了までに高校 1 年の内容を終了させ、高校 2 年終了時には高校の全内容を終了させることが多いことは、まぎれもない事実です。1 年分くらい先の勉強まで終了させる科目がいくつがあることは、大学入試を考えると大切なことです。遠慮はいらぬどころか、遠慮していると首都圏の中高一貫校の生徒に大きく差をつけられてしまうことも、ぜひ頭のどこかに入れておいて下さい。

Q：偏差値の上げ方は大体わかりました。自分一人ではなかなか勉強できないのですが、どうしたらよいでしょうか。

A：開倫塾では、やる気のある塾生の皆様に、使用していない机や椅子(いす)を自習用として無料で使用を許可しています。希望者は保護者の許可を頂いた上で、開倫塾の先生に御相談下さい。ただし、おしゃべりや飲食、メール、ゲーム、マンガなど勉強に関係のないことは絶対禁止です。先生や事務職員が校舎にいる時間、夜 10 時 30 分まででしたら、何時間勉強しても OK です。やる気のある人は、夏休み中、毎日でも勉強をしに来て下さい。この自習のシステムは、やる気のある人のためのものです。やる気のない人は一切お断りです。勉強は自己責任、自助努力とするものであることを十分自覚した人は、大歓迎です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1) 「学力」向上の前提には、2 つあります。

その 1 つは、「勉強の仕方」についてのスキル(能力)が身に付いているかどうかです。まずは、自習や授業でよく「理解」する。ノートもよく取る。次に、よく「理解」した内容について、テキストやノートの「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返して知識を確実に身に付ける、「定着」させる。よく「理解」した知識を確実に「定着」させたら、

「過去の問題例」や「予想問題」を活用して、「応用力」つまり「得点力」を強化する。「勉強の仕方」はいろいろあると思いますが、その1つとして、この方法も参考にして下さいね。

「学力」向上の前提として、「幅広い読書」も大切です。大切なのは何を読むかです。学校の教科書で紹介されている本や学校の図書室・県や市町の公立図書館の本は、安心して読めます。各分野の代表的な本(著作)を、ゆっくりと、よく考えながら熟読することで、「考える力」が少しずつ身に付きます。大切な本は5～6回読み返す。心に触れた文章は「書き抜き読書ノート」に書き写し、折に触れて読み直すことです。

この夏休みから、昨日の新聞を家の人からプレゼントしてもらい、一面から「なめる」ようにゆっくり読むと、薄い本なら1冊分くらいの文章を読んだことになります。また、世の中の動きもよくわかります。「新聞を読んで考える」ことも大切な勉強です。10月には「新聞週間」があります。夏休み中に、新聞を毎日読む習慣を身に付けて2学期を迎えるようにしましょうね。

(2)夏休みは家や地域にいる時間が長いわけですから、いくら受験生とはいえ、家族の一員、社会の一員としての役割を果たしながら生活することが大切です。

自分のことはできるだけ自分ですることはもちろんのこと、家事を分担して、どんなことでもよいですから、できるだけ「手伝い」をしましょう。

地域社会の一員として、どんな小さなことでもよいですから、みんなのため、社会のためになることをするように心掛けましょう。

自分で行きたい学校を1日も早く決めること。夏休みの間か2学期に入ったら行きたい学校を何度か訪問して、具体的な学校のイメージを持ちながら勉強することをお勧めします。

*夏休みの間にいくつかの学校を訪問し、見学させて頂くことも、よい夏休みの過ごし方と考えます。

*受験学年以外の皆様も、学校の具体的なイメージを掴(つか)むために、「オープン・スクール」や「学校公開の日」などを活用して、いくつかの学校訪問に行ってください。

健康第一です。心の健康、身体の健康を大切にお考え下さい。お体を大切にお過ごし下さい。

- 7月18日記 -